

AD ALTIORA SEMPER

神戸市外国語大学 図書館報

vol. **60**

2025年1月31日
【編集・発行】
神戸市外国語大学
図書館



AD ALTIORA SEMPER (アド・アルティオラ・センペル) とは
ラテン語で「常により高きを求めて」という意味です



巻頭言 誰かが話していたことばを遺す ... P.1

P.2 文中作品紹介

P.3 著書紹介

P.4 図書館利用ガイダンス対面実施を再開
ほか

誰かが話していたことばを遺す

総合文化 講師

占部 由子

道行く西鉄バス、各所に流れるソフトバンクホークスの応援歌、スーパーの一角を占める辛子高菜。2024年に神戸に来るまで、これが私の日常風景だった。この日常を感じられない神戸は、私にとって、さながら異世界である。異世界感を増幅するのは、街行く人が話すことばである。すれ違いざまに聞こえることばは、日本語であっても、私が話すものとは大きく異なる。自分の母方言で話す機会はめっきり減った。

この経験は、私が生来住んでいた地域から、神戸に引っ越してきたことに起因する。地域が違うのだから、街並みや人々の話す言葉が違って仕方がない。では、もし、自分が生まれてからずっと同じ地域にいるにも関わらず、自分の母語、あるいは母方言で話せなくなったとき、人は何を思うのだろうか。

世界には、6,000~7,000の言語が存在するとされる。しかし、社会的・経済的理由により、自分の母語で話す機会に限られる（あるいは失っている）人々がいる。こうした人々は、英語やフランス語、スペイン語のような、その社会で力を持つ威信言語を話さざるを得ない状況にある。そして、その社会で生きるのに困らないよう、子どもたちには威信言語を教えるようだ。このような流れで、多くの言語が次世代に受け継がれず、残る話し手は高齢化していき、消滅の危機に瀕している。

この状況は、日本とて例外ではない。UNESCOのAtlas of the world's languages in danger¹では、現在の日本国領内の危機言語として、アイヌ語と琉球諸語（奄美語、沖縄語、国頭語、宮古語、八重山語、与那国語）が挙げられている。さらに日本語と言っても、その方言はそれぞれ異なる文法体系を持っている。

しかし、明治時代以降からの標準語教育やラジオ・テレビといったメディアの影響などにより、地域間

の方言差は埋まりつつある。近畿方言であっても、若年層では「標準語」の影響をうけたことばを話すようになっている。たとえ自分がずっと同じ場所に住んでいたとしても、同年代の人が減り、若い人が標準語に近いことばで話すようになる。必然的に、自分と同じことばで話す人は減っていく。これが、日本語諸方言やアイヌ語、琉球諸語が置かれている状況である。

こうした流れの中で、日本国内の方言研究では、伝統的な地域のことばを対象にし、その文法の全体を記述しようという取り組みがなされている。地域のことば・方言というと、例えば、「九州北東部の方言では不可能を表す際に「～しきらん」という」のような、表現の違いを調べるイメージがあるかもしれない。しかし、この表現を知り、例えば標準語で「読めない」というところをすべて「読みきらん」に置き換えても、方言で話せるようになったとはいえない。「～しきらん」という形式を持つ方言では、自分の能力のせいで不可能な場合にこの形式を使い（例：この漢字を知らないので読みきらん）、状況的に不可能な場合には別の語形を使う（例：ここでは暗くて読まれん）という使い分けが存在する。このようなこと、あるいはこれ以上の複雑さを持つ体系を、文法項目ごとに記述するのである。

地域のことばを遺す取り組みを行うのは、研究者だけではない。現地の人々が、各地で様々な活動を行っている。辞書や語彙集の編纂は良い例である。琉球諸語の場合、いくつもの言語で数万語単位の辞書が編纂されている²。さらに地域によっては、現地の人々が地域のことばを学べるカルタやカレンダーを作ったり、研究者と協働して方言を習得するための語学講座を開いたりしている。地域行政や研究機関と連携しながら継承活動を行うに至った事例もある。

無論、研究者も地域の人々も、自分たちの力だけでこうした活動を行うことはできない。その言語を話せる話者や、地域に詳しい人に協力してもらい、その言語のデータを集めることが必須である。同じく必要なこととして、先人が集めた資料にあたる作業がある。日本国内の言語・方言の場合、地域の図書館や資料館の存在は欠かせない。特にコロナ禍以降、インターネット上でデータを公開する機運が高まり、語彙や談話データにあたるページが拡充されつつある。しかし、郷土資料は自費出版のものも多いため、出版数が少なく、絶版になっていることもある。希少な資料にあたるためには、その地域で資料を収集している機関に行かなければならない。こうした資料の集積は、今は行われなくなった慣習やそれにまつわる語彙を思い出す助けとも、新たな

調査の方針を決める補助にもなる。そして、活動の成果として新たな資料が作られ、集積されていく。

この時代に存在する言語のうち、どれほどの言語・方言が 20 年後、30 年後も話されているかは分からない。そして、今なされている方言の記述研究も、いつか見直されるであろう。けれども、研究やデータがどこかに残っていれば、誰かの目につき、その地の昔の姿を紐解くため、新たな発見を生むための灯火となるかもしれない。積み上げた知見やデータが永く役立つこと、これ以上の僥倖はないであろう。

1 <https://unesdoc.unesco.org/ark:/48223/pf0000187026>
(最終閲覧日: 2024 年 11 月 26 日)

2 「大琉球語辞典」<https://ryukyu-lang.lab.u-ryukyu.ac.jp>
(最終閲覧日: 2024 年 11 月 26 日)

■ 文中紹介作品(図書館所蔵)

- 国立国語研究所.2001.『全国方言談話データベース:日本のふるさとことば集成』国書刊行会.
(請求番号: N818=72=1~20)
- 真田信治.2018.『関西弁事典』ひつじ書房. (請求記号: N818.6=25)
- 呉人恵.2011.『日本の危機言語:言語・方言の多様性と独自性』北海道大学出版会.
(請求記号: N818=64)
- 田窪行則.2013.『琉球列島の言語と文化:その記録と継承』くろしお出版.
(請求記号: N818.9=20)
- 佐々木冠.2006.『方言の文法』岩波書店 (N818=54=2)



社会的結束を考える

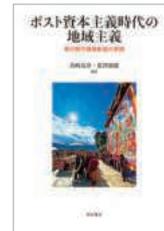
国際関係学科准教授

松田 裕美 (まつだ ゆみ)

『ポスト資本主義時代の 地域主義： 草の根の価値創造の実践』

真崎克彦、藍澤淑雄編著
明石書店、2024.5発行

図書館所蔵：N332.9==40



今年のアメリカ大統領選挙は、トランプ氏の勝利で幕を閉じた。今回の大統領選は接戦で、両党の支持率はほぼ半々であった。ミシガン州立大学のグロスマン教授によると、今日の米国社会は、学位を持つ者と持たざる者の間で政治志向が分断されているという。今回の大統領選は、まさにこのような米国社会の分断を顕著に露呈したものとなった。World Economic Forum 2024 年度のグローバルリスク報告書によると、「社会の二極化」は、世界の政治・経済をけん引しているリーダー達が、今後数年間に世界の安定を脅かしかねない最も危惧している脅威の一つなのである。

歴史を紐解いてみると、かつて社会が分断の危機に見舞われたことは古くからあったようだ。伝統的な価値観に根差した社会では、異質なものが混入すると人々の間に不安と混乱が広がり、異なる宗教や文化を保持する人々を排除しようとする動きが高まる。英国の統計学者ゴルトン（1822-1911）は、白人を最も優良な遺伝子を保持する種と位置づけ、白人以外の、例えば有色人種である移民らと交わることは遺伝子の劣化を招くと説いた。今日の人種差別の基礎を築いた優生学（eugenics）というこの学問を提唱したのは、産業革命が花開き、様々な人種が往来したロンドンであった。優良な遺伝子の生存に適さない人間は排除すべしとする彼の理論が、当時の列強による植民地政策を正当化することにいかに役立ったかを想像するのは難くない。

我々が生きる現代の世界では、紛争や自然

災害が起きた国々からは多くの移民・難民が流出し、かつてないほどの規模で人々が地球上を移動している。中東に位置するヨルダンは、死海やペトラ遺跡といった観光資源を有する美しい国である。だが、日本の四国ほどの大きさしかないこの国が、世界第二位の難民受け入れ大国であるということを知ると、みなさんは驚かれるだろう。中東にありながら、長く政権の安定したヨルダン政府は、古くからパレスチナや、イラク、そして 2011 年からは多くのシリア人難民を受け入れてきた。同じ宗教、言語や文化をもつシリア人難民を、「親戚を助けるように」受け入れた心優しいヨルダン人ですら、大量に押しよせた難民の前に動揺し、ヨルダン人コミュニティでは、シリア人に対するいじめや暴力が広まった。この頃ヨルダン政府が最も懸念していたのは、大量のシリア人難民受け入れに伴う「社会の分断」だったのである。その時、ヨルダン政府や国際機関はどのようにして、この危機に対応したのだろうか。

私は 2018 年から数年間、ヨルダン政府や NGO とともに、シリア人難民オペレーションに関わった。当時考えたことを振り返り執筆した論考が、「子どもが紡ぐ社会的結束」と題して、本書に集録されている。日本で働き生活する外国人の数は年々増加している。これから彼らとともに、持続的な社会を築くうえで、歴史から、そして他国の経験から教訓を得ることは非常に大切である。本書が、少子高齢化に直面する日本を支えていく若い皆さんが今後の社会の在り方を探るヒントになれば幸いである。

対面での図書館利用ガイダンスを再開しました

コロナ禍以降、動画提供で行っていた図書館利用ガイダンスを対面で実施しました。実施時期は2024年10月、曜日や時間を変えて計10回の開催でした。2019年度以前はゼミ単位で実施していましたが、今回から個人での参加とし、全学生を対象に行いました。ガイダンスでは、外大図書館の図書の探し方だけではなく、他大学図書館の図書の取り寄せ方法やデータベースの使い方などもご案内しました。参加者から満足の声を多数いただきました。ご参加ありがとうございました。次年度も実施予定です。奮ってご参加ください。



参加者からの声

- 英語文献の探し方、初めて勉強しました。
- 今回初めて知った内容が多く、解説も丁寧だった。
- 論文の調べ方や検索方法が分かって勉強になった。
- とても丁寧に教えてくださり、分からないことがあったらすぐに対応していただきました。

つながれ読書のバトン

映画を早送りで観る人たち…

ファスト映画・ネタバレ

…コンテンツ消費の現在形

稲田豊史著

あなたはサブスクリプションサービスで映画を倍速視聴しますか。また、早送りで見るとを良しとしますか。本書では映像作品が「鑑賞」から「消費」へ変化している理由を、インタビューを通して、インタビューを通して、胸が痛い内容でした。

第八走者 A

200字以内であなたのお気に入りの本を紹介してください。メールで氏名またはペンネーム・紹介資料書名・著者名を明記し、下記の宛先まで。学生、教員、職員など利用区分に関係なくご応募いただけます。

「つながれ読書のバトン」投稿募集!

応募先

library@office.kobe-cufs.ac.jp

注意事項

- 氏名またはペンネームを掲載させていただきます。
- 外大図書館に所蔵がないものも応募できます。
- 漫画・雑誌等はお遠慮ください。



図書館日誌

《2024年7月～2024年12月》

- 2024年 7.21/28 試験期日曜開館
8.5-16 高校生・受験生体験企画「夏休みに外大図書館へ来てみませんか？」開催
8.21-29 蔵書点検
9.18 JLPオリエンテーション
10.1-25 図書館利用ガイダンス対面実施
11.3-16 神戸外大魅力発信事業「世界の子どもの本展」神戸市立名谷図書館にて開催
11.4-12.1 図書館アンケート実施
11.12-13 トライやるウィーク（1校2名受入）

AD ALTIORA SEMPER vol.60

神戸市外国語大学図書館報 第60号

ISSN	0919-2336
編集・発行	神戸市外国語大学図書館 〒651-2187 神戸市西区学園東町9丁目1 TEL: 078-794-8151 / FAX: 078-797-2257 URL: https://www.kobe-cufs.ac.jp/library/
発行日	2025年1月31日
発行責任者	図書館長 竹越 孝